ZOSAN HIROBA

堺市立総合医療センターと市民の健康をつなぐ広報誌

ぞうさん広場 Vol. 32

特集 理事長・院長対談

地方独立行政法人 堺市立病院機構
堺市立総合医療センター
SAKAI CITY MEDICAL CENTER

対談　高齢化社会における公立病院の地域連携

医療機関それぞれの強みを生かし良質な医療を提供していきたい

理事長　木村（きむら）　正（ただし）
院　長　大里（おおざと）　浩樹（ひろき）

高齢化社会が到来し医療環境が変化しています。市民に良質な医療サービスを提供するためには行政や医師会、歯科医師会、薬剤師会、地域の医療機関との連携・協力が今まで以上に重要となってきたことについて、木村正理事長と大里浩樹院長にお話をうかがいました。

公的医療機関の役割

木村　私は長い間、大阪大学の病院におりましたので、市中病院には20年ぶりに勤務することになりました。今年の4月に就任したばかりですから、まだ分かっていないところはあります。大学病院と公立病院の運営方針の違いを分かったうえで、公立病院の使命を果たせるように努めていきたいと考えています。

大里　最近は急速に高齢化が進み、当院の入院患者数では令和5年に70歳以上が70歳未満の数を上回りました。急性期病院で侵襲的な治療をされた高齢者は生活機能や認知機能が急激に落ちて、急性期医療を終えても生活機能を戻すことができないため、家にも地域にも帰れない人がたくさんいます。そういう社会が到来している中で、公立病院として、また急性期病院としてどのような役割を果たし、どういう取り組みが理想的なのか、その方向性を確立していかなくてはなりません。一例を挙げれば、新型コロナウイルス感染症がまん延

木村 理事長

したときの対応です。当院は率先して病床をコロナ患者の入院に割り振りました。それと共に堺市内の各病院にも病床の確保をお願いして、速やかに体制を作る働きかけをしました。

木村　コロナ対策で大変なのは軽症患者、とりわけ高齢者のケアです。マスクをしない、看護師が「ここにいてください」と言っても買い物に出て行く。その方々と、重症で人工呼吸器を付けてケアしなくてはいけない患者さんの両方を見るのは本当に難しいことです。そういう状況にありながら急性期医療のペースを落とさずに対応してきたことには頭が下がる思いで見ていました。医師、看護師、医療スタッフ、そして職員の皆さんが相当の工夫をしなければできないことだったと思っています。

地域の医療機関との連携

大里　急性期治療は低侵襲的な治療が進んできたので入院期間が短くなった一方で、高齢の患者さんは生活機能が低下しているため、生活機能を回復するまでの入院期間が延びてきています。そういう状況下では１病院で完結するよりは地域の医療機関全体で対応することが重要です。例えば、誤嚥性肺炎は高齢者の救急医療として大きな部分ですが、入院期間が延びてしまうので、当院が手掛けること、後方支援病院で手掛けていただくことを話し合い、急性期の治療が終わったらリハビリをする別の病院で機能を上げていただく必要があります。誤嚥性肺炎での当院の入院期間が短くなっているのは、それぞれの医療機関が役割を果たしていく連携ができているからです。

地域連携の一例として地域医療情報ネットワークシステムがあります。地域の医療機関間で電子カルテの情報を共有する、いわば地域での電子カルテです。現在６つの病院と80の開業医の先生たちが情報を共有していますが、堺市には病院が43と診療所が766（2024年7月1日時点）あるので、医師会と協力して全市に広げていきたいと考えています。さらに言えば、登録医の場合は病院と医療機関、あるいは事務職員同士、医師と医師など、いろいろなレベルでつながりを広げて、シームレスに地域に開かれた病院という形で機能していこうとしています。

大里 院長

地域連携で生まれる効果

木村　昔の医療は赤ひげ先生型でした。ある先生に一度診ていただくと、一生その先生に診てもらっていたわけです。しかし、当院の病床は487床です。1人の患者さんがお亡くなりになるまで診ていくと487人しか診ることができません。病気にはいろんなステージがあります。急性期医療はどこ、あとのサポートやケアはどこというように、役割ごとに分担するのが今の医療のあり方です。その中で、当院の場合は急性期から後方支援病院に診ていただくまでを担当するのが第一義的な役割です。

大里　地域の医療機関のニーズをお聞きするために私たちは２つの取り組みを進めています。患者支援センターのスタッフが訪問して、開業医の先生や後方支援病院の先生方のニーズをお聞きし、それに応えていくという方法と、年1回開催している登録医総会に登録医の先生方をお招きして意見交換でニーズをお聞きする方法です。他にも地域連携を図る取り組みとして、放射線治療、保存期慢性腎臓病、ハートコール（循環器領域の重症コール）、内科の重症コールの4つの領域では、開業医の先生と当院の専門医とをつなげるホットラインを開設しています。それによって、例えば、がんの疼痛ですぐに痛みの緩和をしてもらいたい人の放射線治療は即日から始めることができるようになりました。透析導入もここ数年で件数が1.5倍くらいに伸びています。

災害やパンデミックへの備え

木村　当院はハード、ソフト両面で対策を進めていて、BCP（事業継続計画）で言えば、平時の70％くらいは対応できます。まず、当院は免震構造の建物です。免震と耐震とでは医療を続けるうえでは全然違います。仮に震度７の場合、耐震構造だと物が倒れて医療を継続できなくなりますが、免震の建物はほとんど物が倒れません。とはいえ、その時職員が集まって来られるのか、そして、いろいろなところでトリアージできるのかが大きな課題です。トリアージについては大里院長が医師会を通じて、だれが、どこで、どのような手順で対応するのか、いろいろアイデアを出してアレンジしてくださっています。

大里　高齢化社会対応も災害対策も、１病院で完結するのではなくて、地域全体で役割分担して対応していくのが望ましい姿です。災害やパンデミックの際は、行政が司令塔を担い、医療分野では公立病院として当院が果たす役割があると考えています。

木村　さまざまな困難が発生する中で、特筆しておきたいのは医療技術の進歩です。内科的には革新的な薬が生まれています。分子標的治療と言って、この分子の機能を変えたらこの病気が治る、あるいは状態が変化するという薬がずいぶん出てきました。外科系では、内視鏡でお腹の中をのぞいて手術をする技術はこの20年で大きく進歩しています。

大里　医療技術や薬物治療は進歩してきましたが、すべてを１つの病院が行うことは困難です。近隣の医療機関と協力し、それぞれの強みを生かして、堺市全体としてどういう形で市民によりよい医療を提供できるかということを、医療機関が総意をもって行政と共に方向性をつくっていくべきだと考えています。

病院経営の今後の課題

木村　最大の課題は医療職の確保です。若い人がどんどん減っていて、医師、看護師、薬剤師、技術職員など全ての職種が足りなくなる状況がすぐそこに来ています。最新の医療を提供するにはどうしても設備に投資しなくてはいけませんが、軽装備の医療機関ほど医療職の待遇がよい傾向があります。最近話題になったのは、新しい専攻医を決めるときに多くの人が美容外科にいったということでした。いくらいい機械があっても、いくらいいシステムがあっても「人」がいなければ、良質な医療は提供できません。長い目で見ると由々しき課題です。

大里　当院のポリシーに共鳴し率先して働いてもらえる職場をつくり「若い人に選ばれる病院」にならないといけません。最終的に、市民にどう貢献していけばよいのかということに働き甲斐を持ってもらえる職員を育てていくにはどうすればよいのか。これが今後の病院の課題と考えています。

2024
看護フェア

看護の現場から届けたい、もしもの備え
～ 元気に自分らしく生きるために ～

イベントメニュー

- 看護師によるミニ講演
- 体験コーナー
- 測定コーナー
- 啓発コーナー
- ポスター展示

5月12日(日)
11:00-15:00
場所：アリオ鳳 アリオコート

当院では、看護の日（ナイチンゲールの誕生日5月12日）にちなみ、毎年5月に「看護フェア」を開催しています。今年は「看護の現場から届けたい、もしもの備え～元気に自分らしく生きるために～」をテーマに、アリオ鳳で開催しました。生活習慣病予防のための栄養バランス測定や乳がんのセルフチェックなど疾病予防と健康に関する内容が盛りだくさんのイベントで、400名以上の方にご来場いただき、盛況に終えることができました。来場者からは「子どもを含め家族全員で参加できて良かった」「健康に関して幅広い内容でわかりやすかった」「定期的に開催してほしい、今後も参加したい」といった感想をいただきました。

展示ポスターの一部をご紹介

患者さんからの「ありがとう」が看護の仕事の励みになっています。

アドバンス助産師の資格を持った助産師が中心となって院内助産を実施し、産婦さん一人ひとりに合わせて支援しています。

看護師によるミニ講演で
重要なポイントをご紹介！

会場風景

白衣を着てナースに変身！

親子で心臓マッサージ
（胸骨圧迫）を体験！

チーム医療として多職種が連携し、患者さん中心の医療や看護に取り組んでいます。

全身管理が必要な急性期の患者さんに対して状態観察やケア、精神的サポートを行っています。

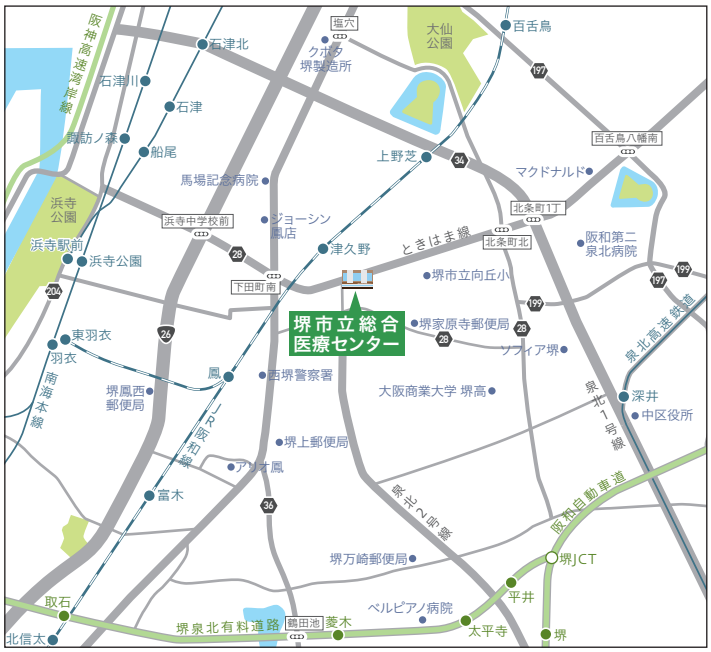
外来では、患者さんが安心して診療や処置を受けられるように症状の観察や生活指導、意思決定支援などを行っています。

広報誌「ぞうさん広場」
読者アンケート実施中！

広報誌の内容を、よりわかりやすく充実したものにできるよう読者の皆さまの声を聞かせてください。
いただきました貴重なご意見やご感想は、改善を図るための参考としますので、ぜひご協力をお願いします。

アンケートフォームは
こちらのQRコードから

Access 交通のご案内



※当院駐車場へのご利用は一方からの進入となっております。
※午前中は大変混雑しますので、第2駐車場もご利用ください。

堺区・南区方面に送迎バスを運行中！

堺区ルート 19本/日　**南区ルート 8本/日**　**無料** ※平日のみ

●運行ルート・時刻表につきましては、ホームページでご確認ください。

バスでお越しの方

中もず駅前、石津川駅前、深井駅、泉ヶ丘駅、
若竹大橋、栂・美木多駅、堺東駅前
上記の南海バス停留所から、堺市立総合医療センター行きのバスをご利用ください

電車でお越しの方

JR阪和線津久野駅　徒歩約5分

車でお越しの方

阪和自動車道「堺IC」より10分
阪神高速道路15号堺線「堺出口」高架道を出口まで進み
国道26号線より15分

駐車場料金のご案内

一般ご利用者(お見舞い等)	当日受診された方	手術付き添いの患者さんのご家族等
最初の1時間 200円	5時間まで 200円	24時間まで 200円
最初の30分以内に出庫の場合は無料。以降30分毎に100円		当日受診された障害者手帳をお持ちの方
		無料

地方独立行政法人 堺市立病院機構
堺市立総合医療センター
SAKAI CITY MEDICAL CENTER
〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁1番1号
TEL.072-272-1199
https://www.sakai-city-hospital.jp/